

きずな

1月号（睦月）

赤磐市立山陽東小学校

見えてきた今後の学習指導の在り方

～次期学習指導要領改訂のポイント～

新年明けましておめでとうございます。

18日間というかなり長い冬休みでしたが、子供たちは全員元気に過ごすことができ、新しい気持ちで新年のスタートを切ることができたことを心から喜びたいと思います。

さて、年末の慌ただしい時に文部科学省の諮問機関である中央教育審議会から「新しい学習指導要領」について答申が出されました。学習指導要領は、おおむね10年に1度改訂されるもので、現在の学習指導要領は、「脱ゆとり教育」を目指して、これまでの学習内容を大幅に増やし、基本的知識・技能を「習得」することから、身に付けた知識・技能を「活用」することが強調され、学習における様々な言語活動が重視されました。次期学習指導要領（小学校では平成32年度本格実施）では、どのようなことがポイントになるのでしょうか。

今回の答申では、学校現場においては、子供たちが「何を知っているか」という知識偏重ではなく、「知っていることを使ってどのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」という活用をよりいっそう重視したものとなっています。特に、「どのように学ぶか」という点では、次の3点に留意し授業改善を進めていくように述べられています。

- ① 学ぶことに興味・関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って、次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。
- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。
- ③ 各教科等で習得した概念や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせ、問いを見いだして解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想、創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

この「主体的・対話的で深い学び」は、「英語教育」とあわせて、これからの学校教育のキーワードとなることは間違いないと思います。本校では「主体的・対話的で深い学び」についての考え方や外国語活動については、現在の学習指導にも取り入れています。今後も新たな教育の方向を的確に見据えて、教育の不易と言われる部分も大切にしながら、教職員一同研修・研究に励むとともに、保護者・地域の皆様にお伝えしていきたいと考えています。

（校長 坪井 秀樹）